

5 月報(2026 年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらし福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【修道生活 250 年の奉獻】

伊藤 望

—援助マリア会プラチナ祝ダイヤモンド祝金祝 祝賀ミサ お祝い会—

2026 年 4 月 29 日（水）午後 2 時から援助マリア修道院でプラチナ祝 Sr 濱野 Sr 清川 ダイヤモンド祝 Sr 杉原 金祝 Sr 小西 合わせて 250 年の奉獻生活を祝う感謝ミサ（ミカエル金神父司式）と祝賀会が行われた。

当日の修道院聖堂には参加者（長府から 14 名東京からも小学校の卒業生も）が続々と詰めかけ会場いっぱいとなった。参加者全員で心からの賛美を歌い、シスター方の奉獻を神に感謝した。4 人を代表して Sr 杉原が「皆様のお祈りとご協力でこの日を迎えられたことを感謝」と謝辞を述べられた。

お祝い会ではそれまでの足取りを振り返る映像が流され、既に天に召されたシスターや懐かしい姿に一同思い出にふけた。そのあとは楽しい歓談の席が設けられ改めてシスター方の底力を感じた。

援助マリア修道会も高齢化に向かう中これからも元気な姿で教会の力として生き続けてくださることを願っている。

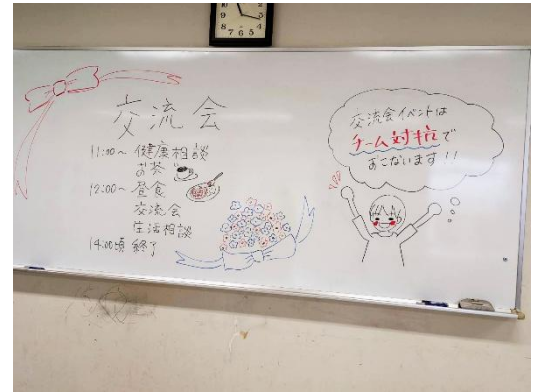


【交流会(炊き出し)に参加して】

松坂 慈子

4 月 29 日(昭和の日)にすこやかセンターで行われた炊き出しの交流会に参加しました。炊き出し自体は、30 年余り続いている『ともしび』の活動なのです。始めは日曜日の度に教会の厨房でカレーだったり、おむすびと味噌汁だったりを作って夕方、駅裏のお城の下の広場に來られるホームレスの方々に食べて頂くという活動でした。が、今では市の援助のお陰で 5、6 人から 10 人くらいに、しかも全くのホームレスの方は一人くらいになり、月の第 1 と第 5 のある日曜日に、5、6 人の方にお弁当をお届けするということに。

そして今も年に2回その方たちのために交流会と称して健康相談や昼食会やいわゆる交流会(ゲームやカラオケ等)をしているのです。その時は市の方たち福祉協議会の方たち数名、延広教会の方数名(ひまわりという週一とかにお茶の会を提供しておられるグループ)そして『ともしび』のメンバーの計20名余りです。



『ともしび』これ自体は有志で始められたようで、それこそ福祉協議会に属しておられる方からJFEのような普通の会社に勤めておられる方とか、塩谷シスターや教会の伊藤先生や小林道子さん…。私が加わったのは10年位前に塩谷シスターが車に乗れなくなられたため、いわゆるアッシーくんを頼まれたのがきっかけでした。シスターがお年で参加できなくなられてからもう5、6年とは言わず経ってしまったのですが、交流会のテーブルの上に修道院から小花を持って来て下さってコップに入れて和ませて下さっておられ

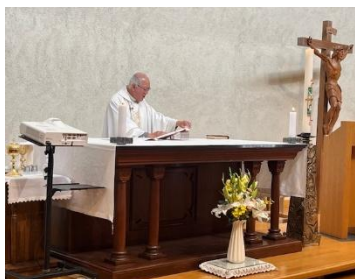


たのが忘れられなくて、せめてその役目を引き継がせて頂こうと…。実はこの度、大失敗を…その大切な役目をすっかり忘れていたのです。思い出して小さな鉢のお花を買いに走って帰ったら、もうカレーが出来ていました。でも来られていた伊藤先生が「ここにこうして来られているだけで充分です」と言って下さいました。

実はそうなんです。交流会に来られた5、6人の方のために、いろんな立場の方たちが集まって、お互いに話をして交流することに…笑顔で心を開いて交流することに意味があることに気付かされました。

「また元気で会いましょうね」…と笑顔でそれぞれの生活に戻って行きました。

【再び集った昔の青年会】 報告 井上 説子 (旧姓:松本、現在カトリック岩国教会在籍)



ご復活後の4月18日(土)に、今から40年ほど前にここ福山教会青年会に集っていた20名弱のかつての若者たちが、静岡、大阪、四国松山、山口、長崎、そして地元福山と様々な場所から、福山教会に集まりました。

最初に午前11時から、現在、翠町教会主任の荻神父様の司式でミサに与りました。ミサでは、再会への感謝と、かつて共に活動した亡くなった4名の友人たちへの追悼、当時の阿部信徒会長も一緒に。そして大変お世話になった鹿江神父様への追悼の祈りをしました(2005年2.17 帰天)。鹿江神父様には、当時遊んでばかりの私たちを温かく見守って下さった思い出でいっぱいです。



昼食後、再び福山教会の2階の集会室で、近況報告など思い出話も交えながら2時間ほどのあつという間のひとときを過ごしました。第二の人生で日本語教師を新たな仕事に励んでいる人、若い時の福山教会や援助マリア修道会のシスターたちの教えに感謝して教会のお手伝いをしている人、ミサや教会から遠ざかっている人、病気療養中で日々のリハビリに励んでいる人、等々、皆それぞれの状況や場所で生きています。

そして、思い出話はキャンプや野球大会、教会での寝泊まりなど楽しく過ごした話ばかりで、笑いがいっぱい楽しい再会となりました。



今から40年くらい前の青年たち

ミサ中の荻神父様の『私たちは「終活」に向かっていますが、・・・』の言葉の中に、確かに年齢を重ねた私たちが、洗礼を受けた者として、この世の命を終えるまで再び神様を思い起こして生きて行くようにとの意味があったと思います。

当時、仕事はしていても未熟だった青年時代を、沢山の活動を通して時間を共有し成長させていただいた福山教会に感謝しながら、最後に荻神父様に派遣の祝福をいただき解散しました。

次回はいつか？とグループラインで盛り上がっています。福山教会の皆さまありがとうございました！ 神に感謝！



皆さんの近況報告をまじめに聞いてます。



かしまし4人娘！？いい年齢になりました



【初聖体】

4月12日初聖体と祝いのパーティがあった 日曜学校から2名 フィリピン共同体から1名



Macalino Tenshi ちゃん



松本りあなちゃん



藏 聖 くん



【野に咲く花の美しさ】

佐藤 紀子

5月5日は子どもの日、そして10日は母の日と感謝づくしの日が続きます。私はといえば早々に赤のカーネーションを母に贈りました。

誰でも大人になれば、社会がむつかしく特に昨今は、複雑化する人間関係に悩む人は少なくないと思います。

サン・デグジュペリという作家の『星の王子さま』という本がありますね。この書物の中で大事なものの、大切なものは目には見えないという哲学的な言葉があります。感謝の心もそれと同じで、型にはなりません。

人間は答えをほしがります。例え本物であっても誰かの力強いメッセージが人を支えることもままあります。そんなに強い人などいないのです。だから人にとっての隣人は宝です。しなやかに生きようと素直な心になれば本物に近づける気がします。静かな心でお祈りをする、その中にも自然と神さまに近づける領域が潜んでいる筈です。昔小さな頃、プレゼントをした母をモデルにした絵があって、ドレスを着た若い母が凛として立っています。

つたない字で『かあさん、いつもありがとう』とあります。もう私自身は、昔には戻れないのですが、あの時涙ぐんでいた母を思い出します。なつかしい頃、なつかしい人々、感傷に耽るのですが、日々の慌ただしさからか本物が心から抜け落ちます。大人になるって嫌だなんて思います。イエス様は親しみを込め、「アッパ、父よ」と言いました。尊敬と敬愛の念を込め、そしてもっとも身近な友に言うようにこう呼んだとあります。お父さんに話しかけて、心を委ねるのは、私たちの種子となることです。

野に咲く花のようにはなれません。けれど人の心をもって本物を見つめる時、優しい風が吹いてゆくのを感じます。

新しい人となることが出来ると思うのです。一つとして同じ事がない様に、人も同じ花はありません。10日は母の日、戦争のないこの日本から傷つき倒れ、それでも生きようとする、弱き人達へ心を込めお祈りをして、皆で野に咲く花を囲めるよう一日も早く戦争が終わります様にと思わずにいられません。

【ブラザー阿部のみ言葉のおすそわけ】～使徒パウロの1コリントの教会への手紙3章～

『わたしたちは、神のために、力を合わせて働く者であり、あなたがたは、神の畑、神の建物なのですから。』

今日も、使徒パウロの1コリントの教会への手紙から、共に考えましょう。
あなたがたは、神の畑、神の建物なのです。この言葉を味わってみました。

わたしたちの、キリストに倣う歩みは、単純に言えば、この言葉を生きることなのかもしれません。永遠の命を得るために、キリストに倣って生きようとするわたしたちは、自分の心と体を単純に、イエスに差し出すことなのかもしれません。

「主よ、私をあなたの平和の実現のためにお使いください」「主よ、わたしをあなたの恵みと救い、そして、大きな愛を伝えるために、わたしをお使いください。」と。わたしのすべては、あなたから頂いた恵みなのです。

わたしたちは、これを自分のために使うのではなく、神のみむねを行うため、隣人への愛の奉仕のために用いるのです。

福音の中でイエスは、病人の癒しのため、神の国の福音を告げるために、休むことなく宣教される姿が描かれています。イエスの救いの恵みに預かったわたしたちは、そのイエスの姿に少しでも近づきましょう。

でも、わたしたちは、弱い人間です。毎日、苦しみにあえいでいます。自分のすべてを捧げることなど到底出来ません。苦しいときは、神に嘆き祈っても良いのです。「なぜ？」と問いかけても良いのです。イエスは必ず、あわれみの心で、わたしたちを包んで下さいます。その苦しみを捧げること、自分を『主に捧げ尽くす』事に繋がると思うのです。主に信頼し、わたしたちが、出来る捧げ物を捧げる毎日になりますように。



今年も相馬野馬追行事が 5 月最終週の土、日、月とおこなわれます。

昨年から女性の参加者の年齢制限が撤廃されたので、女性の騎馬が増えることでしょう。カリタスにボランティアとして毎年野馬追の信心係（お行列の中でお賽銭を集める係）として参加しておられた方が、騎馬として参加されることになりました。乗馬が初めての方でなく、大学時代に乗馬クラブで活躍しておられたとのこと。初めての方はとても無理でしょう。馬に乗るだけでなく、甲冑を着て、行列の列を乱さないように、馬に振り落とされないように、行進するのですから。お正月明けから、馬場（牧場）に出かけて、馬を決めて、何回も馬と出会う、乗馬の訓練、それだけでなく衣装（甲冑）の貸衣装の衣装合わせなど、なかなか大変な準備がいります。毎月隔週にカリタスに 2,3 日やって来て準備をしておられますが、実際に参加できるところまで仕上がるのかどうか??楽しみにしています。

1 月中旬に、アメリカのロスアンジェルスで山火事から 1 年という番組がありました。

その中で、住宅を新築したばかりの人がこの火事で住宅が全焼し、住宅ローンだけが残った。新しく住むための家の家賃にローンで二重の負担にあえいでいるとのニュースがありました。

その話を小高工房で話したところ、「ここもおんなじだよ。ローンと新しい土地での生活のためにみんなどんなに頑張っているか?」と。

津波で全世帯が流された小高の村上地区にも、新婚さんで、新築した住宅にその日引っ越しをしている最中に家とお嫁さんが流されて、ローンだけが残された人のお話も聞きました。

補償金では済まされない大変な重荷を負って生きておられる方々、どんなに悔しい思いを抱いてどこでお暮しになっているのか、表にあらわされていない、ニュースでも取り上げられない様々な苦労が、ず〜っと続いていることを、忘れてはいけないと、このことを通して思いました。

15 年経って、最近目立って家の取り壊しが増えてきたと感じています。外から見て、壊して当然という家もあれば、どこから見ても立派にそのまま住まうことが出来ると思われるような家もあります。きっと元住んでおられた方は、自分の根っこを根こそぎはぎ取られるような思いをしておられることでしょう。15 年の間に高齢の両親が他界されて、新しい土地での知り合いも増え、生活も定まってきたというのが大方だと思います。現に、南相馬修道院の裏手の 1 軒は、いわきに避難しておられた方が、いわきで小学校の先生をしておられて、お父さんが亡くなったので、2 年前に思い切って家を売って、いわきに定住することになりましたと。その家に、最近新しい方が引っ越してこられました。会津からの方で、お仕事が浪江で、家族を呼んでこちらに住むことにされたとのこと。会津よりとても過ごしやすいと思います。

15 年経って、震災の傷跡がまだまだ疼いているけれど、新しい生き方へと変わっていく時のようです。変化の時を、恵みの時に変えられるようお祈りください。

【帰天のお知らせ】

ヨハネ 菅原 親夫 様 (77 歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

【5 月・6 月の行事予定】

5 月		6 月	
3 (日)	乙女峠	7 (日)	キリストの聖体
9 (土)	備後協働体幹事会	8 (月)	8～12 教区司祭黙想会
10 (日)	広島地区宣教司牧評議会	12 (金)	イエスのみ心
15 (金)	広島地区召命祈りの集い	14 (日)	日曜学校歓迎遠足
17 (日)	主の昇天 召命祈りの集い 信徒総会	24 (水)	洗礼者ヨハネの誕生
24 (日)	聖霊降臨の主日	29 (月)	聖ペトロ 聖パウロ使徒
31 (日)	三位一体の主日		

【編集後記】

今年もお声をかけて頂いたので、高齢の体に鞭打って津和野徒歩巡礼に行ってきました。昨年も足を引きずりながらどうにか歩き通せたというのに一年また年老いた体で大丈夫かしら…と思いながらの参加でした。が、今回は若い青年の参加があったのと、ネットの中でしか見る事がないと思っていた憧れの北海道函館のトラピスチヌ修道院のシスターと一緒に歩くことができ気分は最高！初日のハードル高すぎる延々と続く坂道を思うと気分が下がりますが、なんと今回は歩道なしの一車線の道を歩くのは歩行者も運転手側にも危険だということで少し先まで車で移動することに…なんとも嬉しい助けでした。2 日目は雨上がりということもあって山道はぬかるんで落葉やコケ、倒木を避けながらの歩みでしたが、清らかな川の流れと新緑の美しさと小鳥たちのさえずりが体にエネルギーを補充してくれました。上り坂と下り坂の山越えを何度も繰り返しながら苦楽を共に進んで行く仲間が一緒だから出来る巡礼だと思います。ただ今回残念だったのが 20 年程前から何度も一緒に歩かせて頂いた隊長の肥塚神父様が体調不調でお休みだったことでした。この巡礼を終えて思うことは津和野への道は私の人生の一部になっているということでした。(M・H)